



# JAPAN PRIZE

## News

1986年7月 No. 2



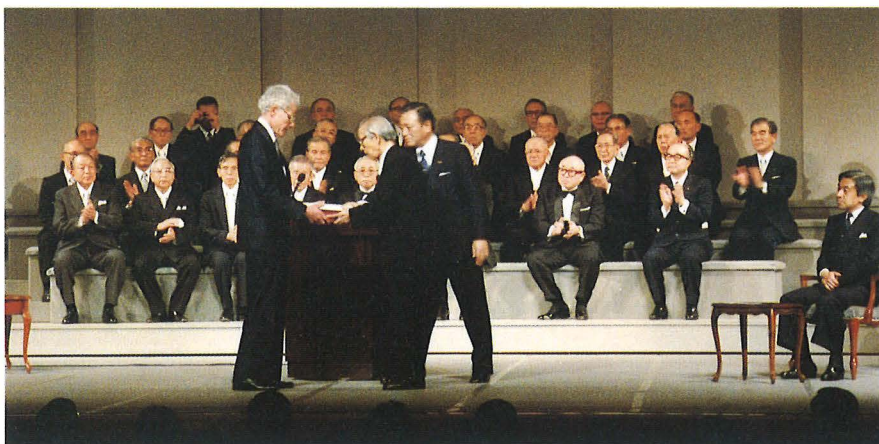
東京・三宅坂の国立劇場で行なわれた第2回ジャパン プライズ授賞式で挨拶するターンブル博士(左)とコルフ博士(右)。下は授賞式風景

### ■ 1986年(第2回)授賞は米国の2博士に

科学技術分野の顕著な功績に与えられる国際的な賞として創設されたジャパンプライズの1986年授賞式が4月19日東京・国立劇場で行なわれました。今回受賞したのは、アモルファス材料など新素材の

技術開発に貢献したデビッド・ターンブル博士(米国)と人工臓器やその関連技術の研究開発で成果を収めているウィレム・J・コルフ博士(米国)です。

授賞式は、皇太子殿下をお迎えして、中曽根内閣総理大臣、矢口最高裁判所長官、河野科学技術庁長官をはじめ在日各国大使、国内の学者等約1,300人が出席して行なわれました。席上、皇太子殿下は、両博士の業績を讃えられた後、「現在は、科学技術の著しい進歩の時代です。その成果をいかに人類の幸福のために用いるかは、きわめて重要な課題です。この賞が人類の幸福に資する科学技術の発展にいつそう寄与することを願います」と述べられました。





# 優れた科学技術を21世紀へ

## 人類の平和と繁栄のために— 1986年(第2回)授賞式・記念講演会

小雨降る東京、午後3時。授賞式は横田財団理事長のあいさつで始められ、つづいて祝辞にたった中曽根内閣総理大臣は、「私たちはいまや世界各国から受けた恩恵や期待に報いるとともに優れた科学技術を人類共通の財産としてとらえ、さらに進歩発展させ21世紀に引きつがなければなりません」とジャパン プライズの意義を強調されました。



授賞式で祝辞をのべる中曽根内閣総理大臣



赤坂プリンスホテルで行なわれた合同記者会見

審査委員会による授賞理由の説明のあと、国際科学技術財団の松下幸之助会長から両博士に日本国際賞が手渡されました。

ターンブル博士は、「今回の受賞は単に私自身の研究成果に対してのみならず、材料科学の初期のパイオニアの方々の成果が認められたものであると考えています」と喜びを語り、コルフ博士は「今回の受賞を大変光栄に思っています。と申しますのは、ジャパン プライズは人類の平和と繁栄のための



日本学術会議を表敬訪問した両博士



表敬訪問で鈴木東京都知事の観迎を受ける両博士

賞であり、人工臓器もまたそのためのものだからです」とあいさつしました。

7時からは赤坂プリンスホテルで華やかな祝宴が開かれ、両博士の受賞を祝いました。(4ページ参照)

●  
受賞記念講演会は、昨年と同じく東京と京都で開かれ、熱心な聴衆を集めました。天皇陛下謁見、表敬訪問、学会メンバーとの討論会、プレスインタビューなど両博士の滞日中のスケジュールはきわめて多忙でした。



昨年にもまして熱心な聴衆を集めた受賞者記念講演会(京都)

### 第2回ジャパンプライズ・ウィークの主な行事

受賞者の業績を讃え、科学技術の知識及び思想の普及啓発を図るため、「ジャパンプライズ・ウィーク」が設けられています。

4月18日(金)	日本学士院訪問／合同記者会見 日本学術会議訪問
4月19日(土)	内閣総理大臣表敬訪問／都知事表敬訪問 授賞式及び祝宴
4月21日(月)	京都府知事・市長表敬訪問 記念講演会(京都・国立京都国際会館) 学会メンバーとの学術討論会(同上)
4月22日(火)	記念講演会(東京・経団連ホール) 学会メンバーとの学術討論会(同上) 受賞者の在京大使館主催レセプション (アメリカ)
4月23日(水)	天皇陛下謁見



## プロフィール 第2回受賞者

### デビッド・ターンブル博士

ハーバード大学教授。1915年生まれ。

現代産業の多方面に多大のインパクトを与えているアモルファス材料など新素材開発の指導原理を導き出した材料科学分野の巨星。

どのような合金が溶融状態からの急冷に際して、ガラスと同じように原子が不規則に並ぶアモルファス状態、いわゆる金属ガラスとして得られやすいかを理論的に予見した。金属だけでなく、ポリマー、セラミックス、半導体を含め、アモルファス状態の生成条件、原子の並び方や性質に関する指導原理を展開し、アモルファス材料の製造に貢献。高密度セラミックスや、ICに使われる完全結晶などの製造への途を開いた。

ハーバード大学の代表的な学者として尊敬され、長年にわたりF・サイト博士とともに「Solid State Physics」の編集に当たっている。

### ウィレムJ. コルフ博士

ユタ大学教授、医用生体工学研究所長。1911年生まれ。

現代医学の画期的な医療技術である人工臓器の父として全世界から深い尊敬を集めている。1943年生国オランダで回転ドラム型人工腎臓装置を開発し、世界で最初に臨床的成功を収めた。

米国に移住後はディスポーザブル型人工腎臓の開発に専念、その普及に大きな業績を残している。1955年、今日普及している膜型人工肺の嚆矢となったポリエチレンフィルム製の膜型人工肺を開発した。1957年からは人工心臓の研究開発に取り組み、完全置換型人工心臓や補助人工心臓の開発に主導的な役割を果たした。

そのほか人工臓器用医用材料の開発、移植用臓器の保存技術、人工義手、聴覚や視覚を代行する人工器管の開発にも関与している。

## 第2回受賞者の決定まで

第2回ジャパン プライズの授賞対象分野として「材料工学」「医療技術」の2分野が選定され、60年3月、受賞候補者推薦の依頼状7,337通が、日本を含む世界73カ国の推薦有資格者(著名な学者等)に送付されました。

その結果、同年6月30日の締切日までに海外24カ国、国内合わせて403件の推薦書が寄せられました。その内訳は：

	外国人	日本人	計
材料工学	147	46	193
医療技術	158	52	210
計	305	98	403

財団は60年7月、再任された吉識雅夫東京理科大学学長を審査委員長とする両分野の権威者28名からなる第2回ジャパン プライズ審査委員会を組織し、直ちに選考を開始しました。同委員会は精力的に調査、検討を重ね、慎重に審査した結果、受賞者として材料工学分野から米国のデビッド・ターンブル博士、医療技術分野から同じく米国のウィレム・J. コルフ博士を選出しました。本年2月、この2名を受賞者として内外に発表しました。

## 1987年(第3回)の授賞対象分野

来年4月に授与が予定されている1987年ジャパン プライズの授賞対象分野は次の通りです。

- ①生物改良…ここでいう「生物改良」とは、生物(動物、植物、微生物)の遺伝的特性の改良または生理的機能の開発によって生産性の向上に資するあらゆる技術をいいます。

- ②エレクトロ-optics…エレクトロニクスまたはレーザー技術ないし新概念を導入することによって発展した広義の先端技術分野を意味し、各種レーザーとその産業応用、大気及び宇宙科学技術への応用、医学的応用、レーザー化学、光計算機、光情報記憶および情報処理、光通信、光計測等を含みます。

本年4月初旬に、受賞候補者を推薦していただくための依頼状約9,310通が、内外の推薦有資格者に発送され、本年6月30日に締切られました。

国際科学技術財団とジャパン プライズ

## 科学技術分野で世界的な賞に

1983年5月5日、内閣総理大臣(総理府、科学技術庁)、外務大臣および文部大臣が所管する公益法人として発足した当財団が、現在最も力を入れているのは「ジャパン プライズ」の授与です。本賞の創設に当たっては、この種の賞では異例の閣議了解をいただいた国際的な賞です。

「…人類の平和と繁栄のために、科学技術が果たす役割についての認識を深め、広く人類の発展に寄与しようとするものであることにかんがみ、その実施に関し、関係行政機関は必要な協力を行うものとする。」(昭和58年10月28日閣議了解)

科学技術の分野でノーベル賞に比べられる世界的な賞にしていくことが財団の使命です。第1回授賞式は1985年4月東京で行なわれ、今年は第2回目となります。

財団は、設立に尽力した松下幸之助(松下電器産業株式会社相談役)を会長とし、横田喜三郎理事長(元最高裁判所長官)ほか各界有識者によって構成された理事会により運営されています。



## 受賞者の業績を讃え、今後の活躍を祈って

ローソクの灯に映る乾杯の波、祝辞、なごやかなざわめき。ターンブル博士とコルフ博士の業績を讃える祝宴は、皇太子殿下、河野洋平国務大臣・科学技術庁長官、鈴木俊一東京都知事、在日各国大使をはじめノーベル賞受賞者福井謙一博士、文化勲章受章者など著名な学者を含む500名にのぼる内外からの来賓を迎えて4月19日午後7時から赤坂プリンスホテル「クリスタルパレス」で開かれました。

宴なかば、両博士の受賞をお祝いして、皇太子妃殿下



祝宴にご臨席された皇太子殿下(中央)  
左は河野国務大臣。右は挨拶する横田財団理事長



東京・赤坂プリンスホテル・クリスタルパレスで行なわれた祝宴で謝辞をのべるターンブル博士(中央)

が学生時代に作詞された「ねむの木の子守歌」が、女性二重唱で演奏され、盛大な拍手をあげるとともに、両博士をはじめ列席者に深い感銘を与えました。



女性二重唱で祝宴にいろどりを添える「ねむの木の子守歌」

### お・知・ら・せ

#### 第2回ジャパン プライズの公式記録を出版

第2回 ジャパンプライズ・ウィークの諸行事を収録した公式記録(日本語・英語合本)を製作中で、本年9月中旬完成の予定です。B5版、160ページ程度、価格は無料です。

ご希望の方は郵送料(国内:¥700、海外・船便:¥770)を添えて当財団にお申し込み下さい。なお、第1回の公式記録もわずかながら残っていますので、ご希望の方はあわせてお申し込み下さい。

#### JAPAN PRIZE Newsを年2回発行

ジャパン プライズを国民の賞として多くの人々に知っていただくために、年2回「JAPAN PRIZE News」(本誌)(日本語版、英語版いずれもA4版、4ページ)を発行しています。ご希望の方は当財団までお申し込み下さい。

今後も各界有識者の方々のご協力を得て、「ジャパン プライズ」を世界に誇れる国際的な賞に育てあげたいと念願しています。卒直なご意見、ご批評をお聞かせください。(編集部)

財団法人国際科学技術財団

THE SCIENCE AND TECHNOLOGY FOUNDATION OF JAPAN (JSTF)

〒100 東京都千代田区日比谷公園1番3号 市政会館内 電話03(508)7691(代)